

公益社団法人日本語教育学会 2020 年度事業計画

2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

《重点項目》

2019 年度末に開催した評価作業部会による「2015—2019 年度事業計画」の評価結果を踏まえ、2020 年度は 2021 年度から開始となる中期計画の策定を行う。

日本語教育学会の会員はもとより、日本語教育に興味をもたれている方に対し、日本語教育を取り巻く社会的動向を踏まえつつ社会啓発活動や広報活動を強化する。そのことを通して、日本語教育学会の認知度を高めるとともに、本会の社会的役割を果たすことを目指す。

2019 年度に実施した人材育成事業の整理を踏まえ、多様な事業の優先度を明確にした上で、各事業の有機的なつながりを整える。

1. 研究・研修

(1) 大会事業（所掌：大会委員会）

春季・秋季の各大会を次の通り行う。

ア. 春季大会

- ① 開催日：2020 年 5 月 30 日（土）、5 月 31 日（日）
- ② 会場：＜発表等＞一橋大学（東京都国立市）
＜懇親会＞同キャンパス内
- ③ 参加費：＜事前登録＞会員 3,500 円（学生証あり 2,000 円）、
一般 5,000 円
＜当日申込＞一律 5,000 円
- ④ 参加者数：1,200 名を見込む。

イ. 秋季大会

- ① 開催日：2020 年 11 月 28 日（土）、11 月 29 日（日）
- ② 会場：＜発表等＞姫路市市民会館・イーグレひめじ（兵庫県姫路市）
＜懇親会＞同建物内
- ③ 参加費：＜事前登録＞会員 3,500 円（学生証あり 2,000 円）、
一般 5,000 円
＜当日申込＞一律 5,000 円
- ④ 参加者数：700 名を見込む。

(2) 支部活動事業（所掌：支部活動委員会）

ア. 支部集会

支部集会を次の通り行う。

- ① 第 1 回支部集会（九州・沖縄支部）：2020 年 6 月 27 日（土）、6 月 28 日（日）、筑紫女学園大学（福岡県太宰府市）、「研究発表」、「交流ひろば」、チャレンジ支援委員会と連携し「発表応募支援セミナー」、「日本語教育推進法を知ろう！～あなたはどうする？～」、調査研究委員会と連携し「ワールドカフェ

- エ)、参加者数 150 名を見込む。
- ② 第 2 回支部集会（北海道支部）：2020 年 7 月 11 日（土）、函館国際ホテル（北海道函館市）予定、「研究発表」、「交流ひろば」、参加者数 50 名を見込む。支部集会は午前開催、同日午後には同会場にて北海道国際センター主催のシンポジウムが開催予定のため、協力する。
 - ③ 第 3 回支部集会（中国支部）：2020 年 10 月予定、広島県内予定（会場未定）、「交流ひろば」、「パネルディスカッションまたはワークショップ」予定、参加者数 70 名を見込む。
 - ④ 第 4 回支部集会（中部支部）：2020 年 10～11 月予定、会場未定、「交流ひろば」、「パネルディスカッション」、「講演・ワークショップ」、参加者数 100 名を見込む。
 - ⑤ 第 5 回支部集会（東北支部）：2020 年 12 月 12 日（土）予定、東北大学予定（宮城県仙台市）、「研究発表」、「交流ひろば」、「パネルディスカッション」、参加者数 50 名を見込む。
 - ⑥ 第 6 回支部集会（関東支部）：2021 年 2～3 月予定、立教大学予定（東京都豊島区）、「研究発表」、「交流ひろば」、「講演またはワークショップ」、「ワールドカフェ」予定・「発表応募支援セミナー」予定、参加者数 80 名を見込む。
 - ⑦ 第 7 回支部集会（関西支部）：2021 年 3 月予定、会場未定、「研究発表」、「交流ひろば」、「発表応募支援セミナー」予定、その他未定、参加者数 120 名を見込む。

イ. 支部活動

支部活動を次の通り行う。

- ① 四国支部活動：2020 年 6 月予定、愛媛大学（愛媛県松山市）、「春季大会参加報告会」、参加者数 20 名を見込む。
- ② 北陸支部活動：2020 年 11 月 7 日（土）予定、新潟大学（新潟県新潟市）、「外国につながるのある児童生徒の学習支援」、参加者数 30 名を見込む。
- ③ 四国支部活動：2020 年 12 月予定、愛媛大学（愛媛県松山市）、「秋季大会参加報告会」、参加者数 20 名を見込む。
- ④ 四国支部活動：2020 年 12 月予定、高知大学（高知県高知市）、「地域の活動紹介」、参加者数 70 名を見込む。
- ⑤ 秋季大会で「交流ひろば」、「地域発信企画」を企画・実施する（関西支部所掌）。参加者数 100 名を見込む。
- ⑥ その他、応募企画の状況により別途支部活動を企画・実施する。

(3) チャレンジ支援事業（所掌：チャレンジ支援委員会）

年齢や経験、業績にかかわらず、新規に日本語教育関連の研究や実践に取り組む人に対する支援・育成をめざした事業を行う。

ア. <はじめて系>

日本語教育をはじめたばかり（またはそれを行うのがはじめて）の人に向け、以下を実施する。

- ① 春季・秋季大会会場で、はじめて大会に参加する人に向け、以下を実施する。
 - (1) 「わかば・コンシェルジュ」ブース

参加者数見込は不明。当日ブースに来た方に対応する。

(2) オリエンテーション「わかばさんいらっしゃい」
参加者数は、春季大会 40 名、秋季大会 20 名を見込む。

(3) 先輩との対話の場「ぷらさ da わかば」
参加者数は、春季大会 24 ペア (48 名)、秋季大会は 12 ペア (24 名)を見込む。なお、「ぷらさ da わかば」のセンパイ役については、本年度より公募制の導入により立候補した会員に依頼する。

② 大会や支部集会ではじめて発表応募をする人に向け、以下を実施する。

(1) 応募書類のチェックをする「おせっかい侍の発表応募支援」を 2020 年 6 月と 12 月に実施する。参加者数各 5 名を見込む。

(2) 九州・沖縄支部集会、関東支部集会、関西支部集会、他で「発表応募支援セミナー&個別相談」を実施する。参加者数各 10 名を見込む。

イ. <これから系>

日本語教育関係者にとってのこれからの新分野、新情報を知りたい人に向け、「明日のための学びの場（通称：あしたば）」を企画・実施する。

① 「日本語教育推進法を知ろう！～あなたは どうする？～」：2020 年 6 月 27 日または 28 日、筑紫女学園大学（九州・沖縄支部集会内）、参加者数 100 名を見込む。

② 「日本語学習者とメンタルヘルス（仮称）」：2020 年 12 月、東京外国語大学（東京都府中市）、参加者数 30 名を見込む。

ウ. <キャリア系>

キャリアとして日本語教育を知りたい人、日本語教育のキャリアパスについて知りたい人に向け、「キャリアパスフォーラム」を企画・実施する。

① 「日本語学校の現場編（仮称）」：2021 年 1 月または 2 月、会場未定（東京近郊）、参加者数 20 名を見込む。

(4) 表彰事業（所掌：表彰委員会・授賞候補選考委員会・学会誌委員会・大会委員会）

ア. 2019 年度各賞の授与

2019 年度日本語教育学会学会賞・奨励賞・功労賞・学会活動貢献賞および『日本語教育』論文賞を 2020 年 5 月 30 日に開催する春季大会において授与する。

イ. 2020 年度各賞の選考

2020 年度日本語教育学会学会賞・奨励賞・功労賞・学会活動貢献賞・『日本語教育』論文賞および大会若手優秀発表賞の選考を行う。

ウ. 受賞者の成果が還元できるよう、各委員会に働きかける。

2. 調査研究

(1) 刊行事業（所掌：学会誌委員会）

ア. 学会誌『日本語教育』（電子版・冊子版）の発行（所掌：学会誌委員会）

175 号～179 号の発行と準備を次の日程で行う。

① 175 号：2020 年 4 月発行（投稿締切：2019 年 9 月 2 日）

② 176 号：2020 年 8 月発行（投稿締切：2020 年 1 月 10 日）寄稿論文を掲載する。

③ 177 号：2020 年 12 月発行（投稿締切：2020 年 5 月 1 日）

④ 178 号：2021 年 4 月発行（投稿締切：2020 年 9 月 1 日）特集テーマを設定する。

⑤ 179号：2021年8月発行（投稿締切：2021年1月12日）

- イ. 2018年度発行の学会誌『日本語教育』掲載論文をJ-Stageで公開する。
- ウ. 2019年度『日本語教育』論文賞受賞論文の概要紹介（英語版）をウェブサイトで公開する。

(2) 調査研究推進事業（所掌：調査研究推進委員会）

日本語教育学会全体の調査研究の方向性を検討し、日本語教育調査研究関連情報の収集、研究交流、研究者育成について調査研究を多角的に推進する。

- ア. 春季大会で一般公開プログラム「根を深くはり、梢を見あげる—日本語教育学の樹よ育て—」を企画・実施する。参加者数は1,000名を見込む。
- イ. 春季大会で科研費申請のための支援セミナーを企画・実施する。参加者数は30名を見込む。
- ウ. 秋季大会で倫理セミナーを企画・実施する。参加者数は20名を見込む。
- エ. 研究課題に関し、九州・沖縄支部集会、他でワールドカフェを企画・実施する。参加者数は各30名を見込む。
- オ. 学会誌特集や大会テーマの提案、情報提供を行うとともに、日本語教育学会の査読体制の見直し、審査・運営協力員の補充・強化を図る。
- カ. 2021年度春季大会一般公開プログラムを企画・準備する。

(3) 社会啓発事業（所掌：社会啓発委員会）

- ア. 秋季大会の一般公開プログラムを企画・実施する。参加者数は200名を見込む。
- イ. 日本語教育や日本語学習者に関連する社会的状況に関し、動画配信を通して、啓発活動を行う。
- ウ. 日本語教育に関わる社会的動向に関する情報を収集する。
- エ. 社会の動きと連動しながら、会員やメディア等への情報発信及び働きかけを行う。また、必要に応じて、行政府・立法府への働きかけに協力する。
- オ. 一般寄附金の広報を充実させる。特定寄附金の戦略を検討する。
- カ. その他、委員会活動の目的の達成に必要な取り組みを行う。

(4) 事典英訳

『新版日本語教育事典』の英訳のウェブ公開を進める。

出版から15年が経ち、日本語教育を取り巻く社会的環境も急速に変化してきている。今般、この内容を英訳して公開するにあたって、どれくらいの事業効果が見込めるか不透明である。また、翻訳作業に膨大な時間がかかっており、すべての作業の完了が見通せないという現状がある。そこで、2020年度末時点で作業完成しているものを公開することをもって事業完了とする。

(5) 受託事業（所掌：各特別委員会）

2018年度より受託している文化庁委託事業「日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業（3か年計画）」事業区分（2）日本語教育人材の研修カリキュラム開発④日本語教師【中堅】に対する研修について、3年目の最終年を迎える2020年度も継続して調査・研究を行う計画である（審査結果に基づく）。

(6) 受託事業成果活用（所掌：文部科学省委託事業成果活用特別委員会）

本会が受託した文部科学省委託「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデ

ルプログラム開発事業」の受託業務終了を受け、本会の研究・教育実践の発展及び社会的貢献をするために、同事業の調査で得られた資料や実践成果の分析・検討・公開を行う。

3. 情報交流事業

(1) 広報事業（所掌：広報委員会）

ア. ウェブサイトの管理・運営

不特定多数向けのサイトとして運営し、多様なユーザーに対しそれぞれのニーズにあったコンテンツを提供し、ユーザーの拡大をめざす。

イ. 各委員会と連携し、学会ウェブサイト、学会メールマガジン、ツイッター、フェイスブックを有効活用した広報活動を展開する。

4. 連携推進事業

(1) 国際連携事業（所掌：国際連携委員会）

ア. 世界12か国・地域の学会で構成する「日本語教育グローバル・ネットワーク(GN)」事務局としての役割を引き続き担い、GNの活動を推進する。

イ. GNウェブサイトの管理・運営を行う。

ウ. ウェブサイトコンテンツ「海外コラム」、「世界の日本語教育」の掲載を行う。
予定掲載数：「海外コラム」5本、「世界の日本語教育」5本を見込む。

エ. 「日本語教育グローバル人材奨励プログラム」を実施する。

オ. 2020年10月31日（土）、11月1日（日）にマカオ大学にて開催される「日本語教育国際研究大会 香港・マカオ2020」の準備に協力・参加する。

(2) 学会連携事業（所掌：学会連携委員会）

ア. 言語系学会連合

言語系学会連合（加盟40学会）の活動に幹事学会として参加し協力する。

イ. Net-J

Net-J（当学会他6研究会が加盟）の活動に参加協力し、互いの情報交流や情報共有、連携を推進する。また、春季大会で各加盟団体による企画を実施する。

ウ. 日本語教育関係機関・団体との協力

日本語教育関係機関・団体の事業に対し要請に応じて後援等付与の協力を行う。

5. 会務運営

(1) 代議員総会・理事会

ア. (2020年度)第8回定時代議員総会を2020年5月31日に開催する。

イ. 理事会を年3回程度開催する。

ウ. 常任理事会を年10回程度開催する。

(2) 公益法人としての手続きおよび体制の整備

公益法人として求められる所要の報告とともに、体制の整備（関係規程を含む）を進める。

(3) 横断的事業の検討

ア. 調査研究合同会議を年に2回程度開催する。

イ. 人材育成合同会議を年に2回程度開催する。

ウ. 広報戦略合同会議を年に2回程度開催する。

以上